

日本美術サウンドアーカイヴ——高見澤文雄《柵を越えた羊の数》1974年



©高見澤文雄 撮影：矢田卓

会期 2018年2月11日（日）～2月17日（土）

12:00-20:00 月曜休廊 最終日は12:00-17:00

会場 南青山 Art & Space ここから

展示作品 高見澤文雄《柵を越えた羊の数》（1974年）再制作 他

トークイベント

日時 2018年2月11日（日）19:00-20:30

会場 南青山 Art & Space ここから

入場料 1000円

予約 info@cococara-minamiaoyama.com 03-6434-7547

出演 高見澤文雄、金子智太郎

日本美術サウンドアーカイヴ

日本にはこれまでに、美術館や画廊、アトリエや公共空間でさまざまな音を鳴り響かせてきた美術家がいる。しかし、ほとんどの音は鳴り止んでしまえば、再び聞くことがかなわなかった。視覚資料を中心とする美術史のなかで、音をめぐる情報はどうしても断片的なままに留まってしまふ。日本美術サウンドアーカイヴはこうした美術家たちによる参照しにくい過去の音にアクセスしようとするプロジェクトである。

作家や関係者へのインタビュー、文献調査、作家が所有する録音などを通じて、過去の作品にまつわる情報を収集し、整理する。そして、作品の再制作や再演を作家に依頼し、もしくは自分たちの手で行い、展覧会、イベント、レコードなどのかたちで発表していく。このような活動を通じて、日本美術における音の意義を検討し、その可能性を開くための基盤をつくりだしたい。

日本美術における過去の音について考えようとするとき、現代の私たちはたくさんの問いに出会う。それは各時代の美術の動向のなかでいかに位置づけられたのか。音楽をはじめとする同時代の他の芸術といかに結びつき、区別されたのか。同時代の聴覚文化や視覚文化といかに関わってきたのか。これらの問いを前にした人が、まず音に向きあうことから探求をはじめられるようにすることは、このプロジェクトの大きな目的のひとつである。

2017年10月 金子智太郎 畠中実

Art & Space ここから

東京都港区南青山2-27-20 工藤ビル202

info@cococara-minamiaoyama.com

03-6434-7547

高見澤文雄

1948 長野県生まれ

1971 多摩美術大学絵画科油画専攻卒業

個展

1971 田村画廊／東京（74）

1972 ときわ画廊／東京（77, 78, 80, 82）

1973 楡の木画廊／東京

1975 真木画廊／東京

1976 白樺画廊／東京

1984 ギャラリー手／東京

1985 ギャラリー16／京都（87）

ギャラリーなつか／東京（91）

1987 なびす画廊／東京（89）

1988 創庫美術館 点／新潟

1990 ヒノギャラリー／東京（92, 93, 95, 96, 97, 99, 00, 03, 05, 07, 11, 12, 14, 16）遊・アートステーション／長野

1992 スカイドアートプレイス青山／東京

2016 ヒノギャラリー／東京

グループ展

1969 ルナミ画廊／東京

1970 「京都アンデパンダン展」京都市美術館／京都

1971 村松画廊／東京（83）

「Bゼミ展」横浜市民ギャラリー／神奈川

ギャラリー16／京都（73）

1973 「実務と実施—12人展」ビナール画廊／東京

「京都ビエンナーレ〈5人組+5〉」京都市美術館／京都

「映像表現'73」京都市美術館／京都

1974 「第11回 東京ビエンナーレ」東京都美術館／東京

「映像表現'74」アートコア／京都

1975 「フィルム・メディア・イン・タムラ'75—ビデオによる」田村画廊／東京

「AFFAIR & PRACTICE」現代文化センター／東京

1976 「京都ビエンナーレ」京都市美術館／京都

1977 「Tokyo Geijutsu-4」田村画廊／東京

1978 「Tokyo Geijutsu-4」村松画廊／東京

「第14回 今日の作家〈表現を仕組む〉展」横浜市民ギャラリー／神奈川

1982 「自在と自製の空間」代々木アートギャラリー／東京

1984 「第20回 今日の作家〈「面」をめぐる表現の現在〉展」横浜市民ギャラリー／神奈川

ギャラリー手／東京

1985 渋谷西武百貨店／東京

「'85 瀬沼・土の光景展」瀬沼宮前荘敷地／茨城

「背後の解読展」山梨県立美術館／山梨

1986 「The Three Artists」ときわ画廊／東京

「TAMA VIVANT '86」渋谷西武シードホール／東京

「Monologue/Dialogue」なびす画廊／東京

1987 「発熱する表面」福岡市美術館／福岡

1989 「第8回 平行芸術展」エスパスOHARA／東京

1990 「今、ドローイング展」ヒノギャラリー／東京

「Small Size Collection」ギャラリーなつか／東京

1991 「ドローイング 4人展」ヒノギャラリー／東京

1992 「形象のはざまに」東京国立近代美術館／東京、国立国際美術館／大阪

「ビデオ・新たな世界——そのメディアの可能性」O美術館／東京

1993 「再制作と引用」板橋区立美術館／東京

1995 「絵画、唯一なるもの」東京国立近代美術館／東京、京都国立近代美術館／京都

1999 「二人展」ヨコハマポートサイドギャラリー／神奈川

2006 「東野芳明を偲ぶオマージュ展 水はつねに複数で流れる」ギャラリーTOM／東京

2008 「所沢ビエンナーレ・プレ美術展 引込線」西武鉄道旧所沢車両工場／埼玉

2009 「第1回 所沢ビエンナーレ美術展 引込線」西武鉄道旧所沢車両工場／埼玉

パブリック・コレクション

東京国立近代美術館／東京

